

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学

名前 出口 寿 久

作成日 2023年3月22日

【責任】

全学共通教育部に所属し、教養科目である課題解決型学習に関する教育を行なうとともに、社会教育・生涯学習の分野を専門とし、地域づくりと公民館やコミュニティセンター等との関係性に関する研究活動を行っている。また、校務として紀要委員会の委員を務めている。

【理念】

学生には、変化が激しい社会を生き抜くために、社会人として必要な資質である「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」を身に付けてもらいたい。

社会に出ると求められるのはそれぞれの職業の専門性だけでなく、仕事や様々な問題に対して、その培ってきた知識をもとに自らアプローチする能力であり、企業は柔軟に考え、行動できる人材を必要とする。またほとんどの人はチームで仕事をするわけで、その中での協調性や発進力、柔軟性やリーダーシップ力が強く求められているのである。

そのため、課題発見・解決するための能力の育成を目指し、積極的に豊かな発想を持って主体的に生き、チームで一体となって取り組む力を持ち、節度を持ってこうどうできる一人の社会人の育成に取り組む。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために担当科目では、グループワークをベースに、学生が「興味関心を高める」、「考える力を養う」、「積極性を高める」、「協働性を高める」、「モラルを学ぶ」という方針で教育を行なっている。

「興味関心を高める」

- ・ 授業では、社会人基礎力を高めるためのエクササイズを積極的に導入しているが、ゲーム的なもの、入社試験問題の活用など学生の興味関心を高める内容に努めている。
- ・ また、地域課題について課題を見つけ、解決方法を探求する授業では、資料や口頭による説明を少なくし、動画を積極的に取り入れている。
- ・ さらに、授業の振り返りを重視し、社会人基礎力の項目について毎回の授業で取り組み度を評価させ、その理由を記述させるとともに、社会人基礎力について1回目と15回

目で自己評価させ、伸びた項目、伸びなかった項目についてその理由を記述させている。

「考える力を養う」

- ・ 授業では、教員が示したテーマに基づき、チームで地域課題を見つけ出し、解決方法を検討し、その内容を資料としてまとめ、プレゼン発表までの一連のプロセスを経ることによって、チームで考える力を養っている。
- ・ また、每期レポート作成を課しているが、前述の振り返りの結果を踏まえて、本授業を受講して、学んだこと、感じたこと、及びこの経験を今後の学生生活や社会人生活においてどの様に生かせるかを書かせている。

「積極性を高める」

- ・ 授業では、グループによる課題解決の方法を探求し、その結果についてプレゼン発表を行なっているが、作業の進め方を誘導し、作業の進捗状況や個人の参画状況を把握するためにワークシートに調査結果等を書き込み、定期的に提出するよう求めている。

「協働性を高める」

- ・ 授業は、グループワークを基本としていることから、役割分担したうえで、共同作業をすることになり、それぞれの努力が発表資料の内容の充実につながる。学生それぞれがモチベーションを高く持って取り組めるよう、プレゼン発表後にKPTワークシートを使ったグループによる振り返りを行なわせた後、グループ毎に個々の取り組み度について学生相互の評価を行っている。

「モラルを学ぶ」

- ・ 授業では、はじめを大切にし、開始時及び終了時には大きな声でのあいさつに取り組んでいる。
- ・ 授業中の集中力を高めるために、私語や携帯電話の操作を禁じ、それらの行動を確認できた場合はその都度指導を行っている。

【評価・成果】

評価

本科目は、試験等で習熟度を図るなどの評価はできないことから、以下によって評価を行っている。

- ・ プレゼン発表（ルーブリックを活用した学生の相互評価・教員評価、）
- ・ レポート（教員評価）
- ・ グループワークの取り組み状況（グループ内の学生の相互評価）

- ・ 振り返りシートの作成状況

成果

- ・ 授業アンケートでは2/3の学生が新たな興味や問題意識を持つことができたと回答しており、本授業の趣旨は理解されていると思われる。
- ・ レポートを見る限り、専門知識だけでなくコミュニケーション能力など社会人としての基礎的な力の必要性について気づき、他の授業や日頃の生活での習得に努めるなどの記述があり、目的は達成できていると思われる。

【目標】

- ・ 授業内容の充実
学生の興味関心をさらに高めるために、新しい課題を模索するとともに利用する教材の開発、外部講師の積極的な活用、ワークシートによる指導方法の見直しを行なう。
- ・ 本学にふさわしいPBL実施体制の構築
2024年からHUSスタンダードがスタートすることに伴い、科目名も変更となり、現在学科毎に行っている授業は、学科混成となる予定で、授業方法についても、2023年度中に根本的な見直しを行い、本学にふさわしい課題解決型学習の実施体制と内容の構築を目指す。